

伊集院の歴史とともに歩んできた地域、それが松元

松元地域は、江戸期には伊集院郷に含まれる上伊集院村でした。現在でも上伊集院駅があることに象徴されるように、その後も上伊集院村として発展し、鹿児島藩において重要な地域でもあった伊集院郷の 1 つとして歩んできた歴史の足跡が色濃く見られます。伊集院郷は石高や人口が藩内で上位にあり、参勤交代などにも利用された出水筋である薩摩街道が通過する地域でもありました。それだけに、文化財の歴史的背景としては伊集院であった頃の物語が濃厚です。

1. 群雄割拠の伊集院

かつて伊集院の中心は、現在の日置市、一字治城こと伊集院城のあった大田です。伊集院城は伊集院氏や薩州島津氏、さらに島津本宗家を受け継いだ島津貴久の居城であり、中薩地域の要でした。それだけに伊集院は群雄割拠の物語が伝えられ、松元地域にはその支城や関連の史跡が点在しています。

①谷口城

戦国期に周辺を治めていた肥後氏によって築城されたと伝わります。下柵城や上柵城とも呼ばれ、曲輪や空堀などが保存されています。天文6（1537）年に対立していた島津忠良らによって攻められ、肥後氏は鹿児島へ敗走しました。

②直林寺跡

至徳元（1384）年、島津家の菩提寺などを創建した石屋真梁せきおくしんりょう 禅師によって建立されました。能登の総持寺そうじじの末寺です。現在は住職墓などがわずかに残されています。

③彦山神社（石屋禅師関連）

直林寺と同じく石屋真梁禅師が創建したとされています。御祭神は大宮能売命おおみやひめのみことなどで、御神体は鏡と伝わります。上屋に守られた本殿は古く、元文元（1736）年とされ、建造物としても貴重です。



彦山神社

④岩屋観音

標高約 240mの山頂付近に巨石が並び、観音平と呼ばれています。その巨石の中に2つの石棺があり、それが信仰の対象となっています。寛延4（1751）年に創始されたとされ、以来地元の方だけでなく、多くの人々から信仰されています。巨石に囲まれた雰囲気は圧巻です。



岩屋観音

⑤仙寿院跡(市指定文化財)

伊集院にある妙円寺の末寺で曹洞宗の寺院です。始めは大円庵と呼ばれていましたが、享保20（1735）年に永吉の梅天寺の富山和尚によって再興されました。^{はいぶつきしゃく}廃仏毀釈によって廃寺となりましたが、住職墓などが残されています。

⑥小長崎神社

御祭神は^{おおやまつみのかみ}大山津神を祭っていますが、伊集院の諏訪神社の勧請とも伝わることから社名がつきました。長崎にあるおくんちで有名な神社が諏訪神社だからです。江戸中期にはこの地にあったとされ、御神体は鏡です。



小長崎神社

⑦^{ひじり}聖神社

当社に伝わる棟札によると永禄8（1565）年に拝殿が造営されたとされ、創建はそれ以前と考えられます。御祭神は^{すきのおのみこと}素戔雄命で、神之川からこの地を望まれて鎮座したと伝説があります。四元集落の人々から信仰されています。



聖神社

⑧春山城

築城年代などは不明ですが、標高231mの場所に位置しています。小規模ながらも空堀や帶曲輪などの痕跡が見られます。

2. 伊集院郷の農村地帯

江戸期には伊集院郷の一部として、水田耕作や畑作が盛んに行われていました。武士の居住地である麓は、現在の日置市の伊集院小学校の周辺にあたります。武士の人口も多かったことから、郷内に武士が分散して居住する地域もあり、郷士が移住し開墾してきたことを示す文化財も数多く点在しています。

①各地に点在する田の神

各地に様々な形状、時代に建立された田の神が安置されています。特に入佐の田の神は、田んぼではなく山中にあって、建立者や建立年代も明確であることから県指定の文化財になっています。内田下の田の神は形状がユニークながらも天保期のものであり、その近くには石碑タイプの田の神もあります。



四元の田の神



森園の田の神



直木の田の神



内田下の田の神



松元下の田の神



入佐の田の神

②福山下の阿弥陀如来像

高さは約 65cm の凝灰岩からなる阿弥陀如来像です。残念ながら頭部は一部欠損していますが、全体的に残されています。おそらく江戸期のものと思われます。



福山下の阿弥陀如来像

③上園寺跡

福山中の個人宅内にあったとされています。この家では内神祭を 11 月に催行されているとのことです。この地にあった寺院は浄土真宗だったようで、戦国期には弾圧されていたようです。

④仁田尾の地蔵・馬頭観音

幹線道路沿いに安政 7 年と刻まれた地蔵があります。安政 7 年は年号として存在しませんが、1860 年のことです。この敷地内には馬頭観音も安置されており、仁田尾にとって信仰の場所となっています。



仁田尾の地蔵・馬頭観音

⑤柿本神社・諏訪大明神

両社は並んで建立されています。柿本神社は、県内では珍しく歌人の柿本人麻呂を御祭神としています。幾度か合祀されましたが、戦後に現在地に遷座されました。諏訪大明神は山浦という場所(大字上谷口)から現在地に移されたもので、武の神である諏訪信仰がこの地域でも盛んであったことが分かります。



柿本神社・諏訪大明神

⑥大鳥神社

御祭神は日本武尊^{やまとたけるのみこと}で、御神体は鏡とされています。創建年代は不明ですが、境内には享保 13（1728）年と刻まれた石灯籠があります。かつてはヒョウタン山と呼ばれる場所にありましたが、昭和 13(1938)年に現在地に遷座されました。



大鳥神社

⑦熊鷹神社

御祭神は日本武尊で、御神体は鏡です。かつては別の場所にありましたが、昭和 16(1941)年に現在地に遷座されました。



熊鷹神社

⑧鎮守神社

大永 6（1526）年に造立されたと伝わります。御祭神は仲哀天皇や神功皇后、応神天皇で、いわゆる八幡神です。地域の人々は若宮神社とも呼んでいました。かつては別の場所に鎮座していたとも伝わります。

⑨伊勢ヶ丘の馬頭観音

大鳥神社裏の丘は、伊勢ヶ丘とも呼ばれています。現在は展望施設があり、周辺の山々が美しく見えます。その展望施設の足元に立ち並ぶのが馬頭観音です。享保 10（1725）年や元禄 15（1702）年と刻まれた石祠があり、古くから信仰されていたことが理解できます。

⑩小原権現

この地域には江戸期に小原門がありました。その門の代表者であった善助が責任者として阿弥陀如来、薬師如来、観音像が安置されるようになったとされます。小原一族によって大切に信仰されています。



小原権現

3. 町田氏の私領・石谷

島津氏の重要な家臣団であった町田氏は、拝領された土地の名前から石谷氏と名乗る時期もあり、その領地は松元地域の石谷や仁田尾でした。そのため、直轄領であった伊集院郷の中であって、石谷は領主である町田氏の支配によって独自に発展してきました。

町田氏にゆかりのある文化財や物語は小学校やまちづくり団体の活動によって、現在でも大切に継承されています。

①町田家の墓（永福寺跡）（市指定文化財）

町田家の菩提寺である永福寺は、始めは一時期領地であった市山（現在の伊佐市）にありました。廃仏毀釈で廃寺となりましたが、現在は浄土真宗の永福寺がそれを受け継いでいます。江戸期を中心にして町田家の墓が立ち並び、英国留學生の学頭であった町田久成の父である久長の墓もあります。



町田家の墓(永福寺跡)4

②熊野神社・歳久の社

文永6（1269）年に領地である石谷に町田氏の鎮守社として建立されました。現在の社殿は昭和35(1960)年に改修されたもので、社殿内には戦国期に活躍した島津歳久を祭る歳久神社があります。



熊野神社

③石坂(市指定文化財)

万延元（1860）年に石谷の青年育成の担当となった勤王志士の有馬新七が、青年たちに課したのが坂道づくりでした。近くから石を運ばせて坂道の舗装を行い、その石坂が残されています。



石坂

④楠公神社跡

文久元（1860）年に鹿児島城下の町田家屋敷にあった楠木正成の木像を領地に安置し、楠公神社としました。その後、この木像は私学校の校内に移され、現在は宮之城（現さつま町）にあります。当時、神社があった場所には碑が建立されています。

⑤石谷小学校の校章

かつて石谷には、楠木正成を祭る楠公神社がありました。青少年の育成も目的としていたことから、石谷に小学校ができる際に、楠木正成の家紋である菊水が校章に採用されました。全国では茨城県那珂市瓜連小学校と石谷小学校の2例です。



石谷小学校の校章

⑥石谷城周辺の町割

町田氏の領地であった石谷は戦国期までの石谷城周辺を中心として家臣団の屋敷や町田氏にとって大切な菩提寺や神社が配置されました。石谷城跡は、現在住宅地となっていますが、平坦面などから当時の様子をしのぶことができます。また、町割りも約200年前の絵図と比べてもほぼ一致するほど保存されています。



石谷城跡周辺

4. シラス台地に生きる

松元地域は、表層地質の大半が鹿児島県の方言でいうシラスです。特に北部を中心に火砕流堆積物のシラスが覆っており、典型的なシラス台地が発達しています。その地質や地形に影響された作物の栽培が行われ、その代表格が茶です。特に手もみ茶の技術向上に努めた地域として、その名は全国区です。また、茶にちなんだ物語も豊富に受け継がれており、銘菓の茶々饅頭も地元の特産品として定着し、地元の給食に提供されることもあります。

①松元茶・茶畑・手もみ茶・鹿児島県さつま茶業指導農場

松元茶は、文化8（1811）年の直木の名寄帳に登場することから、江戸期には生産されていたようです。石谷領主の町田家も江戸後期には茶を栽培しており、松元地域は茶栽培に適した地域でした。明治後半には静岡県から茶の教師を招



松元地域の茶畑

聘するなど、上伊集院村は茶栽培に積極的でした。特に手もみ茶の技術向上に積極的で、昭和 26(1951)年に、上伊集院村茶業指導所が春山に開設されて、日置郡内を中心とした研修指導の場となりました。昭和 59(1984)年の全国植樹祭では、松元産の生葉による手もみ製造技法が、小原邦弘氏と二俣^{おぼら}早男^{ふたつまた}氏によって天覧が行われました。

5. 現在にも通じる物語

松元地域は、かつては上伊集院村であったことから伊集院にちなんだ物語が受け継がれています。JR 鹿児島本線により伊集院方面への往来は現在でも行われています。松元地域には現在 2 つの駅があり、それらの駅名変更や駅設置に関しては、住民の意識と密接につながっています。

また、鹿児島市街地近郊の地域ということもあり、近年新興住宅地として宅地化も進んでいます。かつて山や畑であった場所などもインフラ整備が促進され、住宅地となっています。

①中村晋也美術館

平成 9 (1997)年にオープンした彫刻の美術館です。中村晋也氏の作品約 1,000 点が保存、展示され、企画展も定期的に開催されています。中村晋也氏は大正 15(1926)年に三重県に生まれ、昭和 24(1949)年から鹿児島大学に勤務しました。鹿児島ゆかりの人物としては大久保利通像や島津義弘公、英国留学生らを彫刻し、その原型が美術館にあります。貴重な作品が楽しめる美術館は地域の宝です。

②薩摩松元駅

薩摩松元駅は地元の人々による寄付と奉仕作業によって誕生した歎願駅と呼ばれるもので、昭和 29(1954)年に開業しました。山際の狭い傾斜地に駅があり、ホームは島式です。



薩摩松元駅

③上伊集院駅（饅頭石駅）

大正 2 (1913)年に現在の鹿児島駅から東市来駅まで鉄道が開業した際に誕生しました。その当時は、駅近くにある不思議な伝説のある饅頭石にちなんで「饅頭石駅」と命名されていました。昭和 24(1949)年から松元地域が上伊集院村であったことから、上伊集院駅に名称を変更しました。



上伊集院駅

ちなみに昭和 35(1960)年には上伊集院村は松元町になりましたが、その時には薩摩松元駅も誕生しており、上伊集院駅の駅名はそのままとなりました。

【松元地域の主な未指定文化財リスト】

1. 群雄割拠の伊集院	
1	谷口城
2	直林寺跡
3	彦山神社
4	岩屋観音
5	小長崎神社
6	聖神社
7	春山城
2. 伊集院郷の農村地帯	
8	各地に点在する田の神
9	福山下の阿弥陀如来像
10	上園寺跡
11	仁田尾の地藏・馬頭観音
12	柿本神社・諏訪大明神
13	大鳥神社
14	熊鷹神社
15	鎮守神社
16	伊勢ヶ丘の馬頭観音
17	小原権現
3. 町田氏の領地・石谷	
18	熊野神社・歳久の杜
19	石谷小学校の校章
20	楠公神社跡
21	石谷城周辺の町割
4. シラス台地に生きる	
22	手もみ茶
23	鹿児島県さつま茶業指導農場
5. 現在にも通じる物語	
24	中村晋也美術館
25	薩摩松元駅
26	上伊集院駅